

令和5年度第4回石巻市総合計画推進会議 会議録

■日 時 令和5年11月30日（木） 14時00分～15時35分

■出席者 別紙のとおり

■会議内容

1 会議開催について

委員数25名に対して16名が出席しており会議は成立

新委員の委嘱について

河南地域まちづくり委員会 千葉 新一 委員

石巻金融団 花岡 徹 委員

2 開会あいさつ

(工藤副市長)

お忙しい中ありがとうございます。一言挨拶を申し上げたいと思います。

委員の皆様には日頃から本市の行政全般にわたって御理解御協力を賜り、心から御礼申し上げます。

さて、今年度の本推進会議におきましては、総合計画の目標達成に向けて取り組んでおります、各種施策の評価に加え、様々な視点から多くの御意見をいただきましたことに対し、改めて感謝申し上げます。本日は、令和4年度実績の評価結果など3点につきまして、担当より御説明させていただきますので、忌憚のない御意見を賜りたいと思います。本市の最上位計画であります総合計画をより一層推進し、本市のさらなる発展に向けて、皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます、御挨拶とさせていただきます。

今申し上げた通り、これは最上位計画ですから、この後に色々な計画がぶら下がっていますけれども、それも含めて見える化、透明化を通じて、市政の安定した姿勢というものを作り上げていこうと思っています。

まだまだ道半ばで、本当に多くの御意見を頂戴して、心強く思っておりますけれども、何としても完成したいと思っています。正味1年しか経っていないので、御存知の通り、実際のところ不十分な点がありますけれども、そこも積極的に取り組んで直していきたいと思っています。

令和4年度のお話をしていくにあたって、令和6年度の話をするのも申し訳ありませんが、少なくとも令和6年度以降の計画は、ある程度形にしたいと思っていますので、よろしく願いいたします。それがいわゆる市政のいわゆる羅針盤になるわけで、良いものに仕上げていきたいと思っています。

御存知の通り、復旧復興のいわゆる社会基盤整備、いわゆるハード事業はどうか終えることができましたので、これからいよいよソフト事業に入っていくものですから、

それと時を同じくして、充実したものにしていきたいと思えます。これが市の将来にとって最も重要な計画ですので、ぜひ、皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

(会長)

本年度、この総合計画の進捗状況につきまして、熱い御議論、そして御意見いただきましたこと、私からも委員の皆様へ改めて御礼申し上げたいと思えます。本当にありがとうございました。

今年度の会議や議論を振り返ってみますと、本当に1回1回長い会議だったなと反省しております。長時間に及ぶ議論については、この場をお借りしてお詫び申し上げたいと思えます。

一方で、会議時間が長引いたということもありますが、質的にも量的にも非常に分厚い議論をしていただいたと感じております。石巻というまちに対する、委員の皆様の熱量が、この分厚い参考資料の方に詰まっているのではないかというふうに思えます。約400にわたる意見が出されております。そして、私も一つ一つに目を通しましたけれども、全ての分野から出ています。どこかが薄いとか、そういったことがないということです。一つ一つ、さらなる検証をしていく必要があると思えますし、またこれが来年度の計画への検証、そして後期計画の方にも生かされていくことになるかと思えます。そちらは市の方にもお願いしていきたいと思えますが、我々委員も、一つ一つ意見を理解して、そして出された意見から、皆さんの周りにいらっしゃる市民の方と、ぜひお話していただきたいと考えています。市の取組への理解を深めるとともに、周りでお話をさせていただくことで、ここにいらっしゃる委員の皆様と同じ熱量を持った市民の方が1人でも増えるというのが、石巻というまちのパワーであるかと思えます。そしてこれだけ多くの意見が出されたということが、石巻としてのまちの誇りというふうに思っております。

本日は今年度に対する議論の報告、そして、今回の計画のKGIとなる市民満足度調査の結果の共有ということになります。本年度、最後の会議になりますので、この厚みのある参考資料を、さらに少し分厚くできるように、また、本日も忌憚のない皆様からの御意見をお願いしたいと思います。

3 議題

(1) 第2次石巻市総合計画及び地方創生関係交付金事業における令和4年度実績の評価結果について(資料1:政策企画課)

【質疑】

特になし

(2) 令和5年度市民満足度調査の結果(概要)について(資料2:政策企画課)

【質疑】

(委員)

資料2の5ページを見ていただきたいのですが、この市民満足度というのは、今年度

行った結果の集計、速報値ですよ。それに対して比較する年度、いつと比較しているという基準はございますか。

(政策企画課)

KGIとして市民満足度を設定するにあたり、この調査自体は、今回が初めてになります。そのため、比較する基準はなかったものですから、前期基本計画を策定する前に、市民満足度調査を行っており、この調査項目自体は、ほぼこれと同じような内容の項目で調査しておりますので、その結果をいわゆる基準値という形にさせていただいて、今回調査を行いました。

(委員)

その中で、私が関連している分野のところで、産業分野の観光振興策のところに、吹き出しで“イベントの再開”とありますが、これはコロナ禍でほぼゼロだったんですね。イベントは一切できないというのが3年ほど続いていましたので、その後に増加傾向にあるから満足度が高くなっているとなってますけれど、これは当然の結果ですね。その下に、“宿泊観光客数は横ばい”となってますけれども、これは何を以て横ばいとコメントをしているのか教えてください。

(政策企画課)

KPIの方で“宿泊観光客数”というのを設定していますので、その宿泊観光客数については、推進会議の方でも委員からお話いただいたと記憶しております。どうしても全体のパイがないので、宿泊客数自体がなかなか伸びていかないといったことを担当課の方からお話をさせていただいたと思いますけれども、令和4年度は宿泊客数24万7800人を目標値にしております。これに対し、令和4年度の実績値としては18万ですので、達成率としては73%ということで、C評価になっております。

(委員)

最新のデータとしてコメントが書かれているので、ここは修正が必要だと思います。最初の基準値というのはコロナ前の数字ですね。それからコロナがあって、ほぼゼロになったんですね。我々の業界というのは、ものすごくダメージを受けていますので、ほぼゼロなんですね。そこと比較をするというのは少し違うだろうと、私は個人的に思っています。それと、去年の秋後半から爆発的に回復しています。今は石巻だけで、多分1日2,000人位になっていると思います。ですから、行政の方で捉えている数字は間違っている気がするので、そこは修正をするべきだろうとっていて、ここは横ばいではなくて、回復したと言って構わないと思います。

(政策企画課)

承知しました。今回の施策評価は、令和4年度の評価で1年遅れていますので、今年度の数字を担当課の方にも確認して、対応いたします。

(委員)

そこで、石巻のキャパというのは、震災後ものすごく上がったんです。震災前に比べると2.5倍位増えていますので、先程2,000人位と言いましたが、2,000人より少しオーバーしているような気がします。この主な原因は、原発の再稼働に向けた

仕事の方々が多くなっています。もう一つ、僕はいつも観光協会で問題提起をしているんですが、観光客というのは、何をもって観光客というのかと。ビジネスで来られている方のほうが、消費単価というのは高いです。つまり、ビジネスで来られている方なら、お泊まりになるだけじゃなくて、食事をされます。それから夜は飲みに行かれます。そういうことを考えると、中にはビジネスでも消費単価が低い人もおられますが、一般的に消費単価は非常に高い印象です。ところが、御家族で御旅行されている方々というのは、誤解を恐れないで言えば、食事などに対して、我々の肌感覚としては消費単価がやや低い傾向に感じられます。割と節約志向の方が多というふうに思っていますから、やはり商用の方と、純粹に遊びに来られる方々と意識して区別する必要はないように思っています。むしろ、経済効果として考えるのであれば、すべてグロスで考えるということが大切なんじゃないかと思っています。

もう一つ、別の分野のところ、“新たな雇用の創出”というところがありますが、ここについて雇用の創出ということは、いわゆる働く場が少ないので、雇用する環境を整えていきたいという解釈でよろしいですね。ところが実際、有効求人倍率というのはものすごく高い状態で、それに応募されない人、いわゆる意識的に働かない方が増えているように感じていて、僕はここに今すごく雇用のミスマッチの問題があると考えます。いわゆる働けるにも関わらず、働くことに対して消極的な人が、震災以降、或いはコロナ禍以降、ものすごく増えたような気がいたします。ここの意識を変えていく方策は行政の方で何かお考えになられていますか。

(政策企画課)

委員からお話いただいた通りで、私も有効求人倍率自体は高く推移しているというのは承知しております。やはり希望する職種というか、いわゆる雇用のミスマッチの現象が多く起きているというのは、震災以降、こういった傾向が続いてしまっていると感じております。

企業サイドとしてみれば、年代別で見ると、新しい人材の育成、確保にやはり苦慮しているといった傾向も見てとれますので、こういった部分について産業部ともしっかりと連携しながら、対応方針について検討していきたいと考えております。

(委員)

最後にその部分で1点、いろいろな方々と、面接をする機会があるんですが、まずAという産業でずっと長く働いてきた方が、Bという産業に移るという時に、やはりかなり迷われるんですね。自分にとってできるのかどうか、果たして対応できるのか。そこにはものすごく求人が出ていたりする訳です。それで迷いに迷って応募しに来ましたという方が結構いらっしゃるんですね。実際、別な業種について行けない方もいるんですが、もちろん努力すれば、十分適用される方っていうのもたくさんいらっしゃると思うんですね。従って、企業と求職者の方々のマッチングするいろんな機会がございまして、そういう時に、いわゆる働き手の方のシェアを広げるというような、何かこうセミナーみたいなものを丁寧にやっていただけると大変ありがたいなと思っておりました。

(政策企画課)

これは市だけでなくハローワークの方とも連携しながら対応していきたいと思います。いただいた貴重な御意見ですので、担当課と共有して、取り組んでまいりたいと考えております。ありがとうございました。

(会長)

その他いかがでしょうか。

(委員)

こちらの結果ですけれども、これは市民意識調査からですよ。高齢者福祉のところで、18歳から29歳までの満足度で「どちらかといえば満足している」が55.0%ですごく多いんです。市民意識調査、実はうちにも来ました。私はこの委員をやっているので、大体全部の内容が分かっていますけれども、この年齢の子どもたちに高齢者福祉について聞いても、多分全然分かっていなくて、おじいちゃんとかおばあちゃんがいる人ならまだしも、分からないから「どちらかといえば満足している」にマルしていると思うんですね。KGIの数値を設定する際には、やはりこの当事者の年齢のところも、重視して策定していただかないと、分からないでマルしていることが結構いるかなと、全体を見て思いました。市民意識調査って結構難しいですよ。すごく多岐にわたっているんで、分からないことが結構ある。子育てしている人に高齢者の満足度は多分分からないと思うので、その年齢層を重視して設定していただきたいなと思いました。

(政策企画課)

ありがとうございました。今委員からいただいたお話の通りだと思います。結果的に、最初の属性の部分で御紹介させていただきました通り、回答していただいた多くの方が60歳以上の方になります。お忙しい世代の皆様は、今委員からお話ありました通り、ちょっと面倒くさいという方も非常に多いのかなと。そういった御意見は、今回KGIを市民満足度に設定する際に、今年1月の会議でも委員の方からいただいておりました。本市としては、紙ベースである市民意識調査と併せまして、今回試験的にですけれども、LINEを活用し、専用のフォームを使用した調査も行いました。やはりLINEを活用すると、若い世代の皆様から回答を多くいただいておまして、全く逆の形になっています。そちらについてはまだ分析ができておりませんので、今回お示しさせていただくことができなかつたんですけども、そちらも併せて分析していかなければならないと思っています。傾向として、やはりピンポイントの世代の皆様の不満度が高いので、子育て世代の皆様からしっかりと満足してもらうような対応を取っていかなければならないと思っています。産業分野でもそうだと思いますが、水産振興について皆さんどう思いますか、と市民の皆様聞いたときに、水産業に携わっている関係者の方は、市がどういったことに取り組んでいるのか分かると思いますけれど、それ以外の皆さんに対しては、このアンケート調査で満足度を取るのが難しいところです。そのため、今後もこの形で進めていくにあたって、今回初めて調査いたしましたので、そういった様々な御意見もあると思います。そこもしっかりと分析した中で、見直しも含めて検討していかなければならないと思っています。ありがとうございました。

(会長)

ありがとうございました。その他いかがでしょうか。

(委員)

今LINEのことが出ましたけれど、実は私もLINEで回答しました。このLINEの調査結果を、どのように今後生かすのかというのを知りたくて手を挙げました。私がLINEの調査に参加して思ったのは、確かに今、課長さんもおっしゃったように、この会議でも回答しますよね。それに比べると非常に回答しやすかったなという思いがあります。もし今後、余裕があれば、LINEでどれ位の回答があり、どのような結果だったのか知りたいな、という思いがありますので、もし時間がある時は、こちらの方も教えていただければと思います。よろしくお願いします。

(政策企画課)

ありがとうございます。今、市の方としても、DXの取組の一環として、様々な行政サービスについて、LINE等を活用して、情報提供や、各種申請手続きを進めている中で、今回の機会に、LINEを活用して調査をいたしました。

紙ベースでやる調査とは別に、やはりスマートフォンを使って気軽に回答できる調査であると思いますし、比較的毎年実施できるような調査でもあるとも考えております。今回、御意見を参考にさせていただきながら、やり方も含めて調整をしていきたいと思っております。LINEの調査については、紙ベースの市民意識調査と同じ位の回答数をいただいております。1,000人弱、900人を超える方からアンケートに御協力いただいておりますが、全部の集計が整っていないくて、まだ分析できていないという状況ですので、申し訳ありません。そちらは来年度の会議等々に向けて、ある程度の分析ができましたら、皆様と共有をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(委員)

先程、委員がおっしゃっていた様々な御意見、私も全く同感でございました。実情とこちらの数字がやはり少し乖離しているというのは気になるところでございました。それで先程LINEのお話もありまして、LINEを活用して、様々な情報を市で発信されていて、これを使っていると、私もそうですけれど、紙ベースの市報は本当に必要かというところまでいくのかなと思っておりました。非常に良いことだと思っております。今回の調査もそのような形で活用されているということで、私が着目いたしましたのは、若い方の数字でございます。まず、“新たな雇用の創出”、“産業を担う人材確保と育成”と、それから“効率的な行財政運営”の18歳から29歳までの満足度が非常に高いということで、逆に言えばすごく良いことだと思っております。仕事を探す、またはその雇用の創出に対して敏感に反応するというのやはりその世代が一番だと思いますし、現状、高校を出て、または大学を出て、今の若い方々は2、3年で一旦「自分はこの仕事で良いのかな」と思われて、うちの会社もそうですけども、大体3年経つと一旦退職されたり、他の会社に行ってみて、また戻ったりする方もいらっしゃいます。3年周期と言っておりますけれども、若い方の仕事の働き方や選び方が、前とは随分違ってきて、

同じ仕事にずっといなければいけないという選択肢が大分減っていると思います。一方で、そうやって自分の得意なこととか、やりたいことを本気で見つけていくということが、こちらの数字を見る限りですけれども、少しできているのかなと思います。“新たな雇用”というところが何を指すか分かりませんが、実際問題として、私もショッピングセンターにも出店しておりまして、すごくたくさん求人があって、選び放題のはずでございます。そこで、ここでいう“雇用の創出”というのに対して、これは雇用ではないのかというと、やはり地元雇用になるわけで、実際、地元の方を採用することがほとんどでございます。採用先というか、本社がこちらでないところの会社であっても、採用しているのは、地元の若い方がほとんどですので、それはやはり同じく“新たな雇用の創出”になっていると思います。

それから、NPOセンターの代表の立場で言わせていただきますと、市民活動団体とか一般社団法人とか、実は石巻には多くて、実際仙台や他の市町村よりも、県内でトップじゃないかというくらい震災後特に法人が増えております。そういった一般社団法人やNPO法人の方でも雇用は生まれておりまして、様々な若い方でも、自分の得意とする分野で活躍したいということで、一般の職を離職してでも、そういったような活動、地域に役立ちたいという思いで活動されることが、最終的に就職につながっていることも多いので、広く見ていただけたら良い評価になるのかなと思っていました。

それからもう1点、キャリア教育の話ですけれども、もちろん、いろいろなキャリア教育が、各学校で盛んに始まっておりますが、やはり一旦コロナでここ3年このキャリア教育ができなかったことが、就職の選択肢とか仕事を選ぶときの職業選択にストップがかかったのかなと。この3年ちょっと、暗黒の3年だったのではないかなとも思います。今一生懸命、各学校で職業体験や会社訪問とか、いろいろなキャリア教育が始まっておりますので、ぜひそういったようなことを活用してほしいと思います。また、ある学校では公務員試験を受けることが進路指導になっていらっしゃるようですが、そうではなく、もっと多くの会社があって、こういった仕事があるというのを、ぜひ進路指導される先生方にも学んでいただきたいなと思っております。私から以上でございます。

(政策企画課)

ありがとうございます。先程と同じようなお話だったと思いますけれども、今我々の方としても、この人口減少を何とか抑えていくためには、若い方たちに定住していただく、一旦大学進学で仙台や東京に離れても、また地元に戻ってきていただいて、お仕事をさせていただいて、ここで結婚して子育てしていただく、それがやはり我々が最終的に求めるものになってきます。本日も様々な御意見をいただきましたので、そういった部分について担当部署の方ともしっかり共有させていただきながら、どういった形でできるのか、若い方たちの意見というのもしっかり聞いていかないと考えております。ですので、そういった場づくりをやっていかなければならないとも考えています。当課の方で担当しているもので、青年会議所と連携して“政策コンテスト”というのを実施しておりまして、若い皆様から積極的に市の施策を提案していただく機会を設けています。

“動く市長室”についても、できれば高校生など若い方々からお話を聞くような場を作

ったらどうかという意見をいただいております、それに向けて担当課の方でもいろいろと検討しております。国の方でも子ども家庭庁が創設され、しっかりと子どもたちの意見を聞く場を設けなさい、とされています。そういった中で、やはり子どもたち、中学生や高校生を中心に若い方から話を聞く機会を設けていながら、どうすればずっと石巻で暮らしていきたいと思うのかを伺う機会を、もっと積極的に設けるよう努力していきたいと思っております。ありがとうございます。

(会長)

その他いかがでしょうか。

(委員)

ごみの減量化・リサイクルについて気になったと言いますか、減量化についてですが、そもそもごみを我々で何とかしなきゃいけないというよりは、企業も巻き込んで、簡易包装だったり、そもそもごみが出ないように市として後押ししていただくという政策もあわせて必要なのかなと思います。もちろんすでにやってらっしゃるかもしれませんが。

それからリサイクルですけども、リサイクルは必ずしも全部が良い訳ではなく、例えばアルミはリサイクルした方が良いんですが、逆にペットボトルはあまり効果がないとか、逆にCO₂を出してしまうような結果になるので、物によってはメリハリをつけて、ちゃんと学校で教育するとか、本当にその効果があるかどうかというのを確認しながら進めることが大事かなと思いました。

(政策企画課)

ありがとうございます。まさにリデュース、リユース、リサイクルのリデュースの部分ですよ。ごみを出さない、排出抑制するというのが一番です。リサイクルすれば、逆にお金が結構かかって大変な面もあります。やはり今、委員がおっしゃったようにCO₂の排出、温室効果ガスが世界的にかなり問題になっていて、その中でも日本は特に遅れていると言われておりますので、環境問題というのも市の重要課題として施策を進めていかないといけないと思っております。いただいた御意見をしっかりと担当課の方に伝えて参りたいと思っております。ありがとうございます。

(3) 令和6年度における会議の運営について（資料3：政策企画課）

【質疑】

(委員)

2点あります。1点目はお願いですけども、資料の電子化というのは来年度行っていただけでしょうか。私は紙でいただくよりも、データでいただいた方が先に見られるので良いと思っています。

2点目は、今回も事前に資料を送っていただきましたけれど、なるべく早めにいただけると、読み込んでから会議に来て、時間を意見交換に使った方が会議として有意義かと思っております。以上2点です。

(政策企画課)

データも併せて、お送りさせていただきます。今年度は資料準備の都合で、直前にお送りしたと思います。大変申し訳ありませんでした。極力、1週間前までには、皆様のお手元に届くようなスケジュールで調整させていただきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(会長)

ぜひ、ペーパーレス化をお願いします。私も紙資料がなくても良いという意味では、郵送もなくて良いと思っていますので、その辺り対応をお願いいたします。

(政策企画課)

データを希望される方につきましては、後程照会させていただきます。電子データだけで問題ないという方は、その旨を御回答いただきたいと思います。よろしく申し上げます。

4 その他

特になし

5 閉会

(会長)

本日も貴重な御意見をたくさんいただきました。今日の評価結果についても、400という御意見を委員の皆様から出していただいて、事務局には、適切にと言いますか、各課をまたがるいろいろな御意見いただいたにも関わらず、それぞれの担当課から明快な、次年度に向けての対応等を出していただきました。

市民満足度につきましても、今後の新たな考え等をお聞きすることができました。市民が石巻に住んでよかったというようなまちづくりができたらいいなと思っております。

最後になりますが、やはり委員皆様の御意見を伺うと、市民とともに、市民の力を借りながら、というこれからの石巻の向かう方向が見えてきたような感じがします。

次回も皆様から御意見をたくさんいただきながら、会議を進めていきたいと思っております。今日はありがとうございました。

石巻市総合計画推進会議委員名簿

No.	氏名	所属	備考
1	阿部 隆	特定非営利活動法人 石巻市スポーツ協会	欠席
2	阿部 貞子	牡鹿地域まちづくり委員会	出席
3	姥浦 道生	東北大学	欠席
4	遠藤 一恵	石巻市女性活躍推進会議	出席
5	大槻 敏也	雄勝地域まちづくり委員会	欠席
6	尾形 輝雄	石巻商工会議所	欠席
7	木村 亜梨沙	一般社団法人 石巻青年会議所	出席
8	木村 民男	石巻市子ども・子育て会議	副会長 出席
9	木村 美保子	特定非営利活動法人 いしのまきNPOセンター	出席
10	後藤 宗徳	一般社団法人 石巻観光協会	出席
11	斎藤 貢	いしのまき農業協同組合	欠席
12	齋藤 義樹	特定非営利活動法人 いしのまき環境ネット	出席
13	佐藤 尚美	北上地域まちづくり委員会	欠席
14	庄子 真岐	石巻専修大学	会長 出席
15	須能 邦雄	石巻市水産振興協議会	欠席
16	高橋 京子	石巻文化協会	出席
17	千葉 新一	河南地域まちづくり委員会	出席
18	千葉 照彦	桃生地域まちづくり委員会	出席
19	野呂 拓生	東北福祉大学	欠席
20	花岡 徹	石巻金融団	出席
21	林 久善	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	出席
22	伏見 不二雄	石巻市町内会連合会	出席
23	三浦 悠	株式会社 街づくりまんぼう	出席
24	山内 隆夫	河北地域まちづくり委員会	出席
25	横山 奈緒子	石巻市PTA協議会	欠席

オブザーバー

1	斉藤 喜浩	国土交通省東北地方整備局北上川下流河川事務所	代理出席
2	石川 佳洋	宮城県東部地方振興事務所	代理出席
3	鏑木 祐人	総務部総務課 法制企画官	欠席

令和5年11月30日現在（敬称略）